

2021年度 埼玉東上地域教育プラットフォーム高等学校調査報告書

TJUP 学生募集活動推進グループ

調査年度：2021年度

調査対象高等学校：プラットフォーム参加大学・短期大学による高等学校訪問等でデータ提供いただいた高等学校（非公開）

調査対象：2021年3月卒業生

報告者：山岡香苗（東邦音楽大学）

報告日：2021年10月8日

1.高等学校への調査目的

埼玉東上地域教育プラットフォーム(TJUP)では、地元生まれ育った人が、地元で学び地元で活躍できる地域づくりに貢献することを目的に活動を行っている。そこで、TJUP参加大学・短期大学近隣の高等学校を中心に依頼し、地域の高等学校のニーズを把握し、今後の方針・展開を検討するために以下の調査を行った。

2.調査結果

1)大学・短期大学進学率

調査した高等学校の大学・短大進学率は平均して 57.9%であった。令和2年度の調査結果ではあるが、大学・短大進学率の全国平均は 58.6%（文部科学省令和2年度学校基本調査）であり、今回の調査高等学校の進学率は全国平均より **0.7** ポイント低い結果であった。

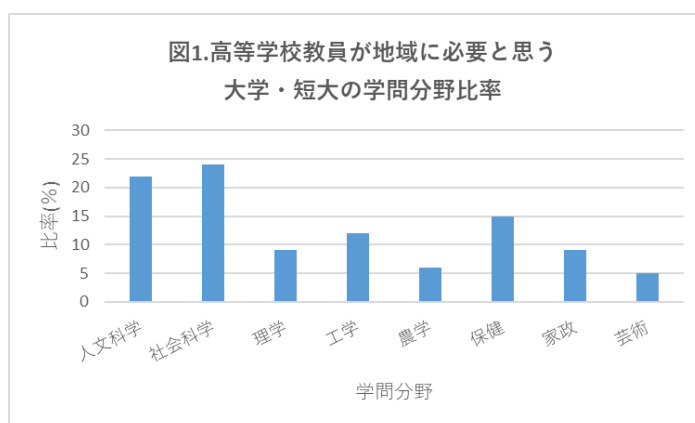
2)埼玉東上地域に所在する大学・短期大学への進学率

調査対象高等学校から埼玉東上地域の大学・短大への進学率は 25.3%と非常に少ない。令和2年度の調査結果ではあるが、大学入学者のうち「自県（出身高等学校と同一県）内の大学へ入学した人（率）の比率」について、全国平均は 42.6%、埼玉県は 36.0%（文部科学省令和2年度学校基本調査）であり、埼玉東上地域も含め、埼玉県の高校生は他の地域にある大学へと進学する傾向が顕著であることが明らかになった。

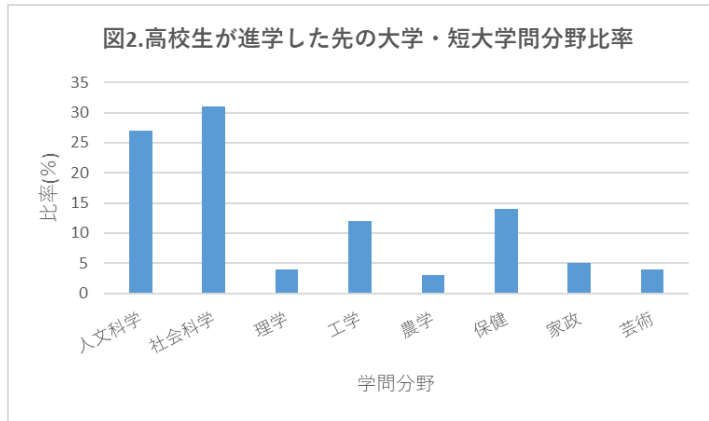
3)地域に必要な大学・短大の学問分野

高等学校に、埼玉東上地域の大学、短期大学に必要な学問分野を聞いたところ、

図1のような結果となった。人文科学・社会科学といった文化系学問の比率が多く、また理科系学問では工学や医療・保健といった実社会に役に立つ学問へのニーズが高等学校教員側では大きいことがわかった。



では実際に、高校生が進学した学問分野について調査した結果が図2である。図2からは、人文科学、社会科学分野に進学する高校生の割合が、高等学校教員側が望む進学率よりも非常に多いことがわかる。社会科学分野には、法学・政治学・経済学・経営学・社会学が当てはまり、昨年度の本調査同様、同分野への進学率がかなり多い結果となっている。



4)大学・短期大学との連携

大学、短期大学との連携について、計画中・実行中のものについて調査したところ、包括的連携、大学の授業聴講、実習体験授業、出張講義、研究室等でのインターンシップの実施といった、主に将来の進路意識を高める観点での連携が挙げられた。

5)埼玉県の大学・短大への期待

埼玉県の大学・短大に対する期待を自由回答で記載してもらったところ、

- 高大連携事業の充実
- 指定校の要望についての検討
- 地域に密着した学校経営に期待
- 出前授業やガイダンス等の連携事業への期待
- 看護医療系分野への指定校枠が増えることへの期待
- 生徒の適性に合った進学が実現できるように交流を深めたい
- 理系生徒が選択できる学部、学科の更なる充実への期待
- 地元自治体との連携、交流事業を通じての地域発展への貢献
- コロナ禍において県内(近隣)に進学を希望する生徒は一定数いる
- 早期合格者に対する高校と連携した学習指導等の研究
- 様々な分野で地域を支える人材を育成する学部、学科が増えることへの期待
- 進学のイメージが膨らむ高校1, 2年生対象の体験授業の実施
- キャリア支援への期待
- 地元の生徒の受け入れ
- より一層学業に専念できる環境の整備

上記のようなさまざまな貴重な意見が得られた。

3.まとめ

TJUP 参加大学・短大は高等学校教員が地域に必要と思っている学問分野を有しており、その比率もニーズと合致している。これから、TJUP 参加大学・短大と、地元の高等学校との話し合いを密に行い、高校生が地元の大学・短期大学に進学したいと思える、教育の「見える化」を進める為にこれまで以上の連携方法を検討する必要がある。